



# 農ある暮らし かわら版

『農ある練馬のまちと暮らし』について考えるつどい

## 第2回「農ある風景とまちの暮らし」研究会

「農ある風景を活かしたまちづくり」～西大泉をモデルケースに考えます～

主催：練馬まちづくりセンター

開催日時：平成23年 8月 10日(水) 19:00～21:00 於：練馬まちづくりセンター

今回の研究会は、区民のみなさんと具体のまちを見て歩いた結果をもとに、農ある景観について話し合いました。

### この研究会では…

景観やまちなみの視点で練馬の「農ある風景」を捉えることを考えていきます。

そして、調和のとれた農地と周辺地区のまちづくりを考えるための指針をつくり、それを活用した“地区まちづくり”<sup>\*</sup>へと広がっていくことを目指しています。

<sup>\*</sup> 練馬区まちづくり条例に基づき、地区にお住まいのみなさんでまちのルール等をつくり、その実現を目指すものです。

今回は西大泉のまちをモデルケースに、農ある景観を見て考え、指針づくりのヒントを探します。

今回は同じまちづくりセンター内で、農だけでなく、景観全般を対象に活動を行っている「景観まちづくり研究会」と共同で開催しました。



★初参加の方も含め、14名の方にご参加いただきました。

西大泉のまちの様子については、「景観まちづくり研究会 レポート No.2」をご覧ください！

### ①西大泉のまちを見て歩く

7/29に西大泉のまち歩きを行った様子を、地図や写真、ビデオ等を用いて、参加したみなさんにご紹介しました。その際、昔の航空写真等とも照らし合わせ、地区の歴史をご紹介しました。

そして、まち歩きに参加頂いたみなさんから、西大泉のまちについて感じたことをご紹介頂きました。

- ・ 西大泉に芝畑が多いことを初めて知った。
- ・ (茶色の)無垢の羽目板の外装がきれいに残っていて、なかなか区内では見られないと思った。
- ・ 立派な建物を残すには、どうしたらよいか、みんなで考えることが必要だ。
- ・ 西大泉には魅力的な道がたくさんある。通りに名前をつけたい!!
- ・ 果物などが採れたときに、ちょっと食べられる東屋やカフェのような場所があるとよいと思う。
- ・ 相続があると、敷地が分割してしまいがちだが、一区画100坪のまま残る地区があってもよいと思う。
- ・ ブロック塀があることで、まちの景色を台無しにしている。各戸の塀は、みんなで取り払っていく話し合いが必要。

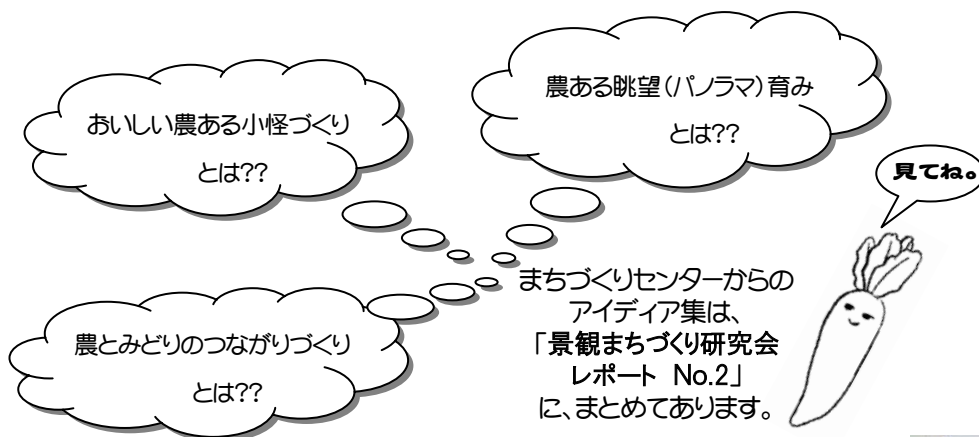


西大泉は区内でも比較的多くの【農の景観】が見られる場所です。

まち歩きを通して、「こうしたら、さらにまちが良くなる!」という意見が、多く聞かれました。

## ②まちセンからの提案

「農ある風景を活かした景観まちづくり」を具体化するアイデアを、まちづくりセンターからご紹介しました。



これらのアイデアは、農と調和したまちづくりの手がかりになります。地域で共有することにより、まちづくりに活かしていきたいですね。

## ③会場からの意見

西大泉の現況やアイデア事例を聞き、みなさん「農ある風景を活かしたまちづくり」について、語り合いました!



### 農地を守るまちづくり

- 近郊農業を捉えるには、担い手不足を解消する仕組みづくりが大切。都市部ならではの、地域の中で“耕す”仕組みを、確立する方法を考えていきたい。
- 良いものは“真似”される。広まっていくアイデアもありそう。
- 「個人として」「社会として」農地を守っていく、今までにはない新しい仕組みが必要。
- 農地が存続するためには、相続税の問題がある。市民が取り組んでいけるテーマなのだろうか。
- 「この練馬の農はまちにとって特別な財産なんですよ」という意識がもっと高まれば、一定の地区を「農業特区」とし、農に特化したまちづくりを行う、という考え方もあるのではないかな。

### 練馬らしさを残すには…

- 屋敷林を残す方法として、練馬区には「憩いの森<sup>\*</sup>」制度がある。芝畑を「憩いの芝」にも出来、もっと気軽に入って行けるようにしたらどうか。  
⇒<sup>\*</sup>自宅の屋敷林部分を指定し、一般に開放することで固定資産税・相続税減免を得ることができます。
- 古い道は適度な“ゆらぎ”があり、緑がより良く見える。古い道ならではの、きめ細かなゆらぎの道を残していくことが大事。
- 練馬に住み始めて半年だが、住む決め手になったのは、屋敷林の他、各戸の庭の緑が多いこと。練馬の農地全体を残すのは難しいかもしれないが、部分部分で残すことができれば、「練馬らしさ・地域らしさ」を残していけるのではないだろうか。



### 福祉の視点から

- 障害者の自立を支援する職に就いているが、就労や社会参画の方法として、「農」を切り口に考えてみたい。例えば「体験農園」の延長線上に、福祉との関係性を見出したい。

⇒練馬区では、「練馬の農の7つの機能」にひとつに「福祉・保健機能」を掲げています。このように、生産の場だけではない農地の機能は、今後益々大きく求められると考えられます。

